

■ 腹部超音波検査

超音波は耳に聞こえない周波数の高い音で一定方向に直進する性質があります。超音波を体の中に発信すると、その中の臓器や組織の状態によって超音波は様々な物理的変化（反射、減弱など）を受けます。反射した超音波を受診し、画像化して診断するのが超音波検査です。

安全で苦痛も少なく、繰り返し検査が出来るという利点がある反面、体脂肪の多い人や消化管のガスの多い人では、明瞭な画像が得にくいという短所もあります。肝臓・胆のう・腎臓・膵臓・脾臓などの臓器のがんや膀胱がん（尿検査併用）を早期の段階で発見することができます。また、超音波検査により腫瘤（かたまり状の病変）のようなものが発見されると、精密検査となり細胞を採取して判断されます。生活習慣病健診の中やオプションとして活用される検査ですが、がん発見にとっても有効な検査です。



【腹部超音波検査の様子】